

第157回くらしの植物苑観察会 2012年4月28日(土)

## 佐倉城址の植物観察—春編—

原 正利(千葉県立中央博物館 生態・環境研究部)

今年は冬が寒く長かったため、サクラの開花も例年に比べて随分と遅れました。他の植物も同様で、木々の開花や開葉は10日から2週間ほど遅れている感じです。4月末というところ、例年では春の花は盛りを過ぎ、目に鮮やかな黄緑色の若葉の季節を迎えているはずですが、今年はまだ春の花も咲き残り、例年よりも多くの花を観察できるのではないかと思います。観察会では、まずくらしの植物苑内の植物を観察した後、城址へ出て散策しながら、春の花や木々の芽吹きを観察したいと思います。

昨年秋の観察会でもお話しましたが、佐倉城址の森の特徴は、ひとつには、スタジイやシラカシ、ウラジロガシ、タブノキなどの常緑広葉樹とケヤキ、ムクノキ、エノキ、イヌシデ、コナラなどの落葉広葉樹の両者が見られること、そして大木が多いことです。これらの木々は城址内のやや急な斜面を中心に生育し、城址の景観を特徴づけています。春から初夏にかけて、木々は様々な色で芽吹き、森は遠目にもパステルカラーに彩られます。一方、城址は鹿島川沿いの沖積地に張り出した半島状の台地の上に作られ、周囲を掘割や低湿地に囲まれ、谷津の一部が城址内に入り込んでいます(姥が池のあたり)。また、城郭を造る際の人工的な土地改変は見られるものの、近年では遺跡保護のため大規模な造成は無く、公園管理のため適度な草刈りがなされてきた側面もあり、谷津に見られる草本植物が比較的、豊かに残されています。春は、これらの草本植物の花がいろいろと見られる時期でもあります。

例えば、姥が池脇の斜面の下部にはニリンソウやヤマネコノメソウが見られます。ニリンソウはキンポウゲ科のアネモネの仲間(*Anemone flaccida*)で春植物の代表です。ヤマネコノメソウも、花は春先早くに咲き、すでに咲き終わっていますが、種子をつけています。ネコノメソウの仲間は、種子を雨粒によって飛ばす“雨滴散布”をする植物として知られています。このほか、姥が池周辺の草地には、ムラサキサギゴケやツルカノコソウ、コクサギ、ヘビイチゴなど谷津の春の植物が花を咲かせているのが観察できます。

姥ヶ池の南側のあずまやのあたりは草刈りがされて草原となっており、タチツボスミレやアマナが見られます。アマナも春植物で、千葉県ではやや珍しい植物ですが、なぜか佐倉城址には沢山、見られます。花を着けている株がとても少ないのが残念です。タチツボスミレは谷津を彩る最も普通なスミレですが、このあたりでは白花のものも見られます。

佐倉城址の森に多い常緑樹のウラジロガシやシラカシ、アカガシ、落葉樹のコナラはいずれもブナ科のコナラ属に属する植物で、花粉を風によって散布する風媒花をつけます。風媒花では、葉の芽吹きと同時か芽吹きよりも先に花を咲かせ、葉が開ききる前に花粉を飛ばすのが普通です。コナラ属では雄花と雌花は別に付き、雄花は多数集まって長い穂となり、風に揺れて花粉を飛ばします。佐倉城址に多いオニグルミも、同様に穂になった多数の雄花をつけます。このような花をつける植物群は尾状花序群と呼ばれています。

.....

**次回予告** 第158回くらしの植物苑観察会 2012年5月26日(土)  
「錦絵に見る植物」 大久保 純一(国立歴史民俗博物館 情報資料研究系)  
13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要